

生物多様性条約に基づく次期世界目標の設定に向けた対応 (その3)

ポツダム・イニシアティブ - 生物多様性2010

経緯

- ・平成19年3月にドイツのポツダムで開催されたG8環境大臣会合において取りまとめ。
- ・生物多様性に関する経済的な評価・分析(対策を講じなかった場合の損失、保全のためのコストの分析など)を行うことや、生物多様性の科学的基盤を強化することなどが盛り込まれた。

概要

- 1) 生物多様性の地球規模の損失における、経済的重要性の分析
- 2) 科学と政策の間のインターフェース(接点)向上
- 3) コミュニケーション、教育および社会の認識、「地球規模の生物種情報システム」の構築の検討
- 4) 生産と消費のパターン
- 5) 野生動物の違法取引対策の強化
- 6) 侵略的外来生物種対策の強化
- 7) 海洋保護区の地球規模ネットワーク
- 8) 生物多様性と気候変化
- 9) 資金調達
- 10) 2010年とそれ以降

百年先を見通した我が国の健全で豊かな自然環境（生物多様性）の保全（その1）

千島列島や赤道近くから流れてきた海流は、ゆたかな生命を育んで北の海ではアザラシが子育てにいそしみ、南の海では青々と茂る海草の間をジュゴンの群れが悠々と泳いでいく。



数千、数万kmも離れた遠い国から飛んできた鳥たちが、そここの森や干潟で遊び、餌をついばむ。



奥山だけでなく里地里山、都市にも巨木がそびえ、大都市にも大きな森があり、猛禽類が悠々と空を舞っている。

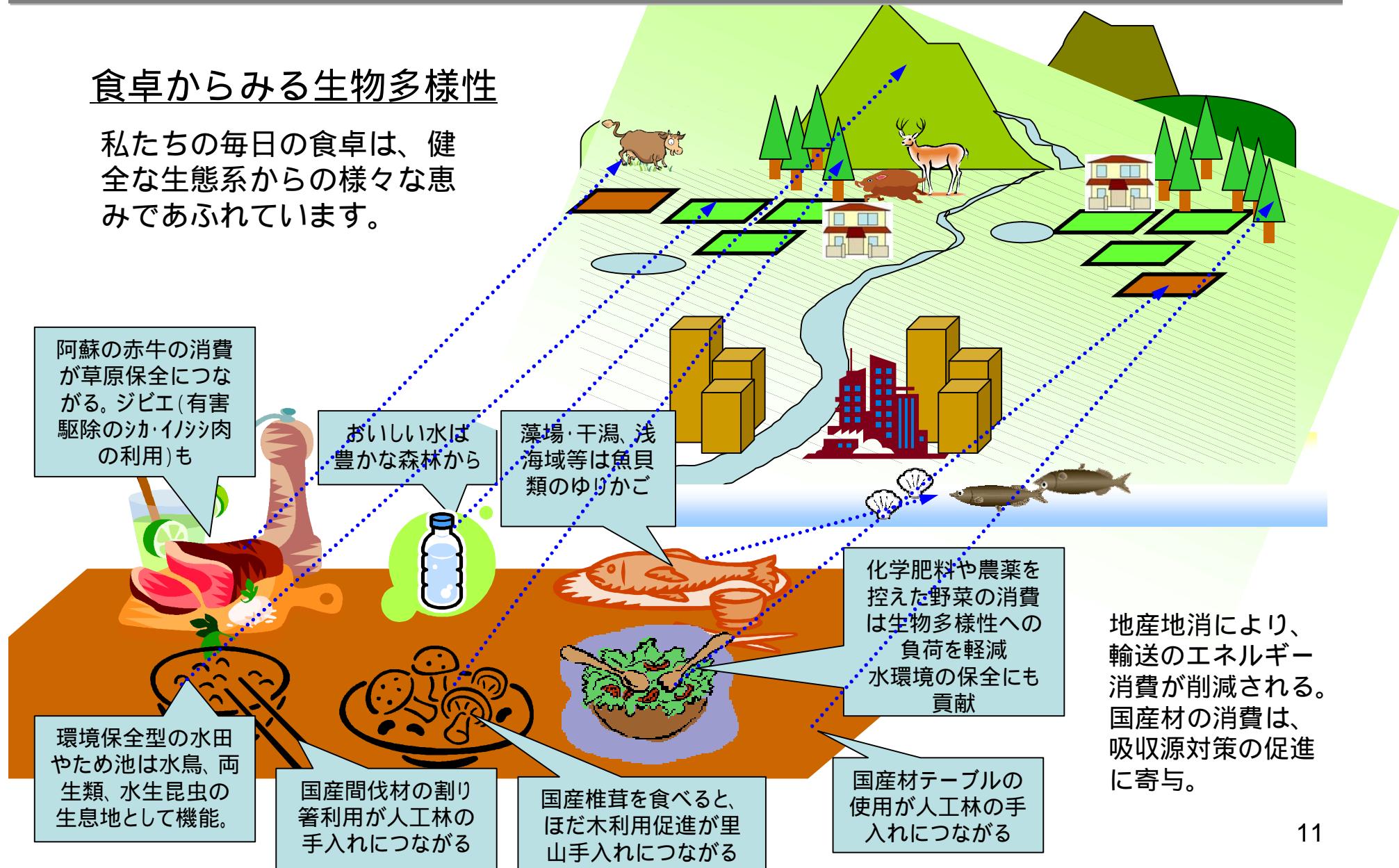
都市、町や村に、生き物たちのにぎわいがあり、人々は生き物たちとのふれあいを通して生活のにぎわい、ゆたかさを感じる。

新・生物多様性国家戦略(平成14年3月策定)
「生物多様性から見た国土のグランドデザイン」

百年先を見通した我が国の健全で豊かな自然環境（生物多様性）の保全（その2）

食卓からみる生物多様性

私たちの毎日の食卓は、健全な生態系からの様々な恵みであふれています。



循環型社会の日本モデルのアジアを中心とした展開 (その1)

直面する課題

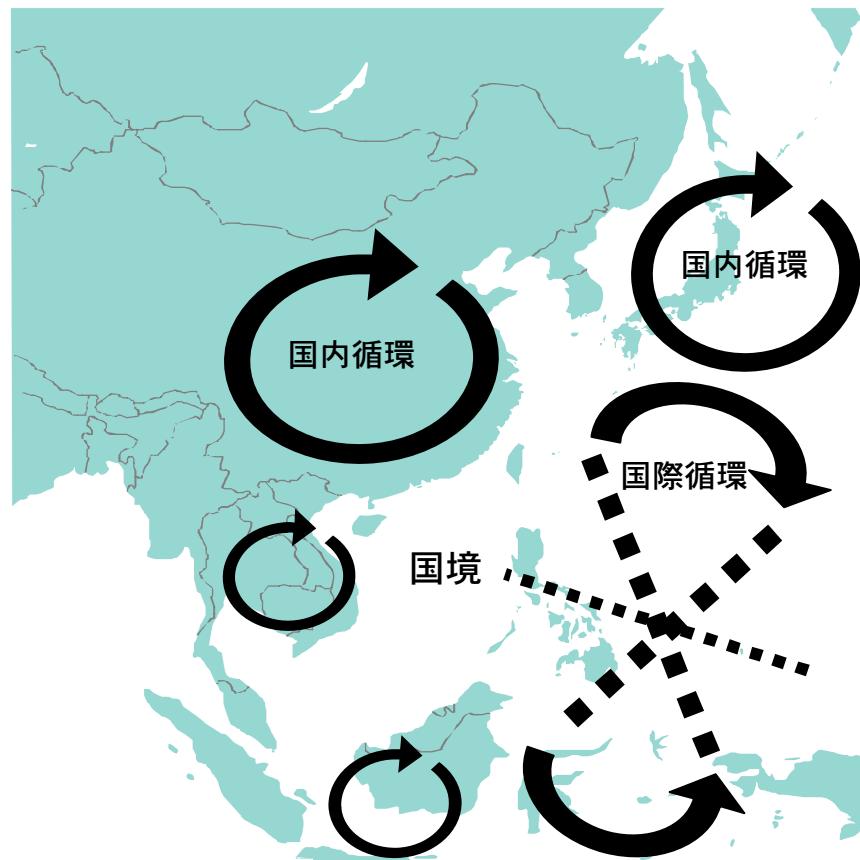
- ・廃棄物の発生の増大と質の多様化による不適正な処理
- ・循環資源の越境移動の活発化による国内外の廃棄物処理・リサイクルシステムへの影響
- ・資源消費の拡大と価格の高騰



基本的な考え方

国際的な循環型社会を構築するために、まず各国の国内で循環型社会を構築し、廃棄物の不法な輸出入を防止する取組を充実・強化し、その上で循環資源の輸出入の円滑化を図ることが必要。我が国は、G8議長国となる2008年を目指して3Rイニシアティブの推進に向けてリーダーシップを発揮

国際的な循環型社会のイメージ



前提：それぞれの国において循環型社会を実現

- ・我が国において、モデルとなる取組を推進
- ・途上国の取組を支援